

もともとは、「半透明な心：他者とともにあることの悲劇、あるいは救いをめぐって」というタイトルで雑誌に載った文章が大幅に加筆修正されました。スタンリー・カヴェルの「他者の心についての懐疑論は、懐疑論ではなく悲劇である。」という言葉、夏目漱石『行人』の「御前他の心が解るかい」という二つの言葉を軸に、わかったりわからなかったりする他者の心について哲学する本です。カヴェルとその源流にあるウィトゲンシュタインの哲学をふまえた加筆修正の分、哲学的な論証の続く難しい本ですが、まず読み飛ばしてみるだけでも得るものがある本だと思います。

『このゲームにはゴールがない——ひとの心の哲学』／古田徹也／筑摩書房

ISBN 978-4-480-84327-2